

自由が丘駅周辺再編計画

東急大井町線地下化に伴う
線路跡地の活用方法の提案

自由が丘駅は、東急東横線及び大井町線が交差する東京南部の主要な交通拠点である。駅を中心とする周辺地域は目黒区最大の広域的商業拠点となっており、後背地には低層住宅街が広がっている。自由が丘地区は都内で「住みたい街」として毎年上位に挙げられる一方、大井町線の地上線路による街の分断、踏切による渋滞、ロータリー空間や歩行者空間の狭隘化といった問題が存在する。区では自由が丘駅における連続立体交差事業を計画しており、周辺環境の調査を行う他、まちづくりに関する意見を市民に広く求めている。2030年を目処に、行政、事業者、TMOが連携して、駅の建替えや都市計画道路の整備と併せ、駅前広場の歩行者空間の整備を行う予定であるが、具体的な提案はなされていない。本計画では、自由が丘駅及び、東急大井町線緑が丘駅間と九品仏駅間の線路跡地を対象敷地として、自由が丘地区の将来像を構想する。



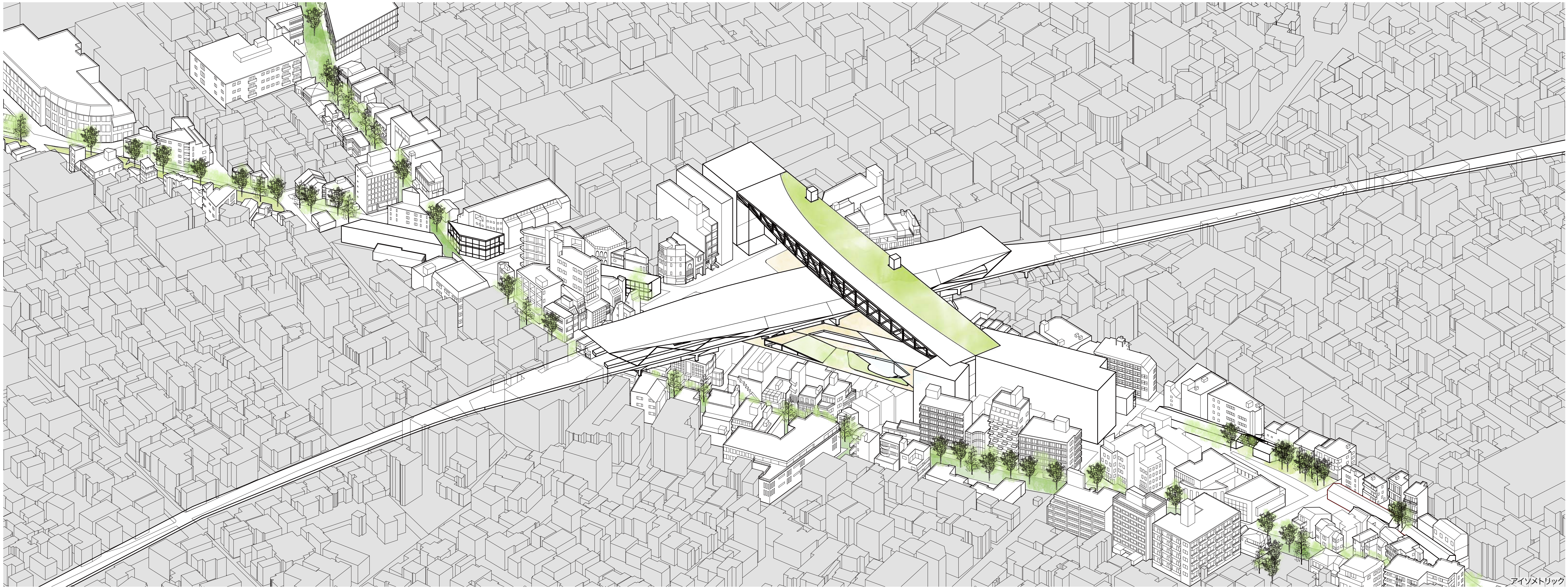
東側から駅を眺める。駅前広場まで視線が抜ける。広場には訪問販売車やストリートパフォーマンス、ランドスケープで遊ぶ子供達で賑わう。



俯瞰パース。屋上は子供達の遊び場や休憩スペースとなるルーフテラスを計画します。



正面口パース。地下の大井町線、高架の東横線、上空のサテライトキャンパスが見える。視線が東側広場まで抜ける



アイソストリック

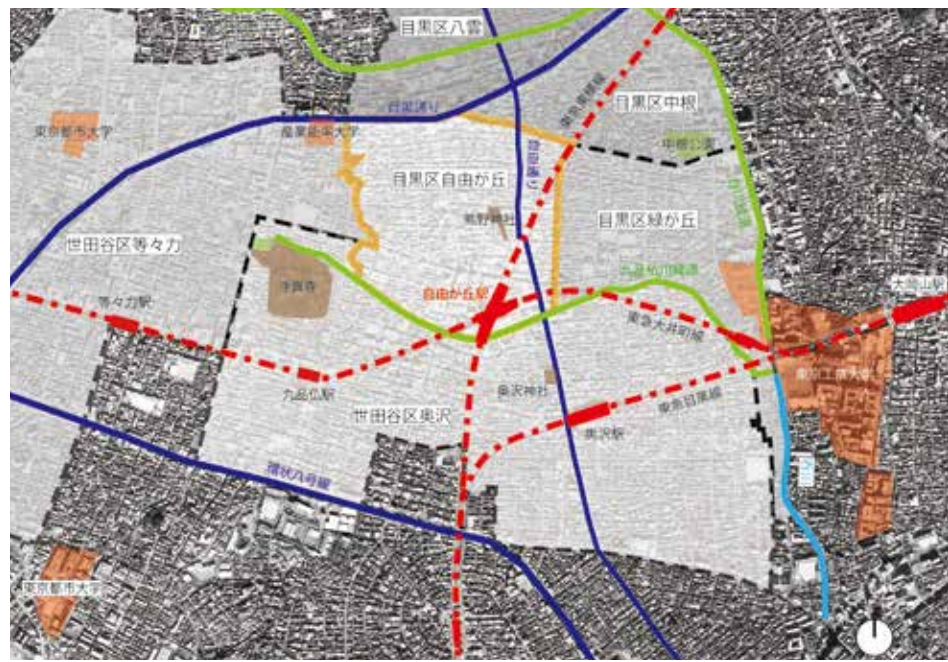


大井町線ホームパース。プラットフォーム上には地下部分の採光や換気の為に吹き抜けを設けることで、自然光が入り込む。



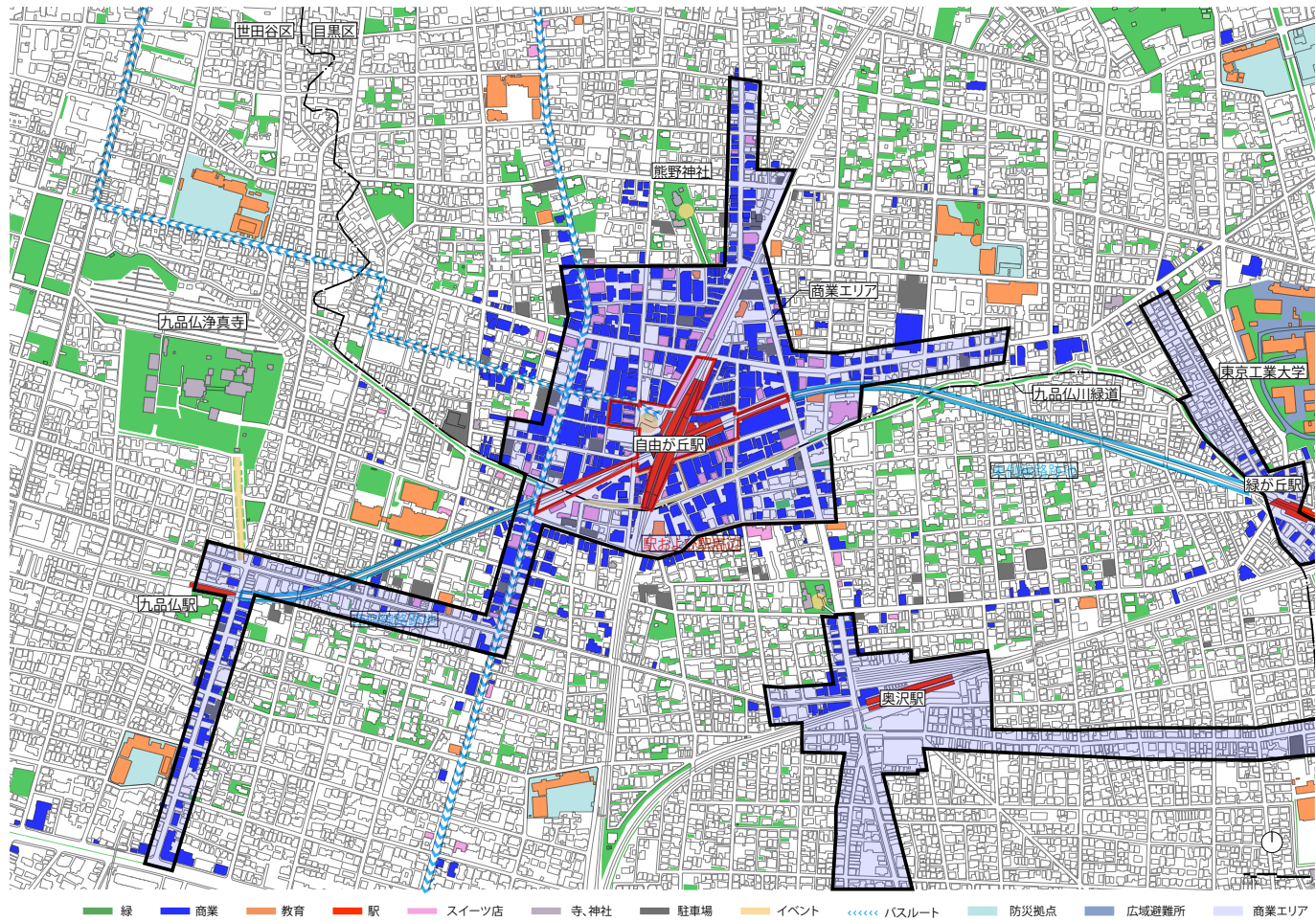
東横線ホームパース。吹き抜けから、地下まで見通すことが出来る。膜屋根とすることで柔らかな光を取り込む。

自由が丘地区の基本情報



自由が丘地区は東京都目黒区南部に位置し、目黒区最大の広域的商業地帯となっており、後背地には低層住宅街が広がっている。地区の中心に位置する自由が丘駅は東急東横線及び大井町線が交差する東京南部の主要な交通拠点である。また、地域の中央部に自由通り、北端に隣接して目黒通りが通る。駅周辺は戦前に「豪沼（ふすまぬま）」と言う沼地を埋め立てて造成された土地であるため、丘と言う地名ながら、周辺と比較して低地となっている。東は緑が丘、西は世田谷区等々力、南は世田谷区奥沢、北は八雲・中根と接する。

自由が丘地区の周辺図



歩行者空間が整備されておらず、危険な場所が多い
路切による渋滞の発生および街の分断
ロータリー空間



九品仏川緑道
自由が丘駅正面口
雑貨屋など

自由が丘地区の取り組み

自由が丘森林化計画 丘パチプロジェクト



街に点在するバラから蜜を集めるミツバチ
プランターにミツバチの好きな植物を植え、沿道に置く

2009 年にはじまった街にみどりを増やすための計画である。代表的なプロジェクトとして丘ぱちプロジェクトが挙げられる。丘ぱちプロジェクトは「自由が丘森林化計画」の核となる活動で、2009 年 3 月から始まった事業。ミツバチは、そのエリアの環境指標生物としての役割も果たす。採取した蜂蜜は、スイーツ店に提供されオリジナルスイーツがつけられている。

駅および線路跡地の空間利用

駅の複合用途化

No.	駅名	複合用途
1	大岡山駅	病院
2	岩見沢駅	市庁サービスセンター
3	ほととぎす駅	温泉施設
4	数寄江駅	市民交流施設
5	女満別駅	図書館
6	釧路駅	図書館
7	延岡駅	市民交流施設
8	上富岡駅	交流スペース
9	上常呂駅	コミュニティ施設
10	由岐駅	市民ホール

現在、駅はインフラとしての役割だけでなく、街の中心に位置する点、通学や通勤において多くの人が利用するという点に着目し、商業施設と複合用途化することで、効率的な利用を可能とする駅が多く存在する。一方で、近年の人口減少や高齢化等により街の衰退・空洞化が深刻化していることなど、駅に商業施設以外の用途を複合化する事例もみられる(表2)。それらは地区における活動拠点となり、住民活動や交流を支援し、賑わいを創出することで問題解決を図っている。

線路跡地の空間利用

No.	駅名	複合用途
1	大岡山駅	病院
2	岩見沢駅	市庁サービスセンター
3	ほととぎす駅	温泉施設
4	数寄江駅	市民交流施設
5	女満別駅	図書館
6	釧路駅	図書館
7	延岡駅	市民交流施設
8	上富岡駅	交流スペース
9	上常呂駅	コミュニティ施設
10	由岐駅	市民ホール

線路跡地の空間利用として、高架下、高架上、地上部の3種類がある。各々に適した空間利用がみられ、それぞれについて事例調査を行った(表3)。いずれも歩行空間へと転用し、街を横断する公共空間とすることで、住民の活動を創出していると考えられる。

自由が丘地区の特徴



自由が丘地区のまちづくり

年	出来事
1927	自由が丘駅開業
1929	文芸人らが多く暮らす「自由が丘文化村」と呼ばれる
1934	九品仏川緑道の整備
1936	マツリノエビル(現・マツリノエビル)開業
1938	サンポート・プレイス開業
1939	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1940	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1941	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1942	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1943	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1944	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1945	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1946	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1947	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1948	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1949	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1950	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1951	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1952	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1953	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1954	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1955	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1956	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1957	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1958	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1959	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1960	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1961	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1962	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1963	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1964	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1965	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1966	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1967	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1968	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1969	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1970	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1971	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1972	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1973	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1974	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1975	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1976	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1977	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1978	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1979	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1980	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1981	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1982	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1983	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1984	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1985	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1986	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1987	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1988	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1989	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1990	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1991	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1992	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1993	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1994	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1995	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1996	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1997	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1998	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1999	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2000	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2001	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2002	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2003	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2004	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2005	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2006	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2007	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2008	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2009	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2010	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2011	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2012	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2013	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2014	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2015	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2016	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画

連続立体交差事業について



連続立体交差事業イメージ図
引用 https://www.city.hirakata.osakajp/0000005372.html

自由が丘地区における連続立体交差事業

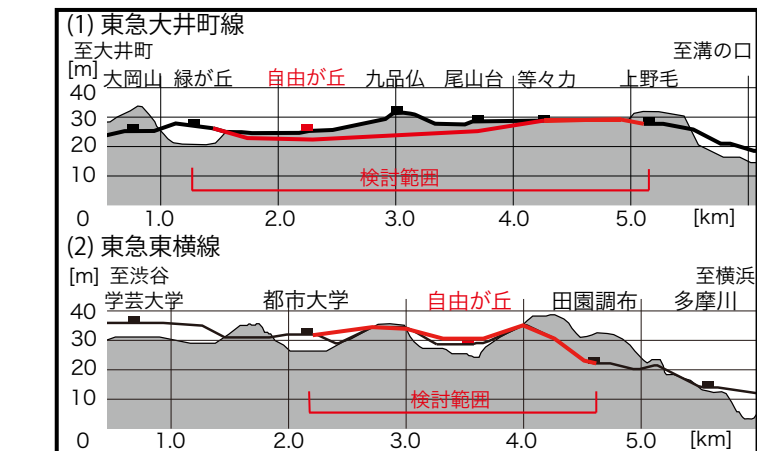


図2 自由が丘駅における連続立体交差事業検討範囲

表1 自由が丘駅における連続立体交差事業に関するこれまでの経緯

No.	駅名	複合用途
1	大岡山駅	病院
2	岩見沢駅	市庁サービスセンター
3	ほととぎす駅	温泉施設
4	数寄江駅	市民交流施設
5	女満別駅	図書館
6	釧路駅	図書館
7	延岡駅	市民交流施設
8	上富岡駅	交流スペース
9	上常呂駅	コミュニティ施設
10	由岐駅	市民ホール

自由が丘地区は多くの観光客で賑わう。有名なスイーツ店が多いことから「スイーツのまち」として人気であり、雑貨屋やパティスリーなどのお店が多い。また、自由が丘は毎月のようにイベントが開催され賑わっている。とりわけ来客者数が多いのは「自由が丘女神まつり」と「スイーツフェスタ」である。この期間は街全体が盛り上がりを見せる。こうした特徴を活かし、自由が丘地区では歩いて美しい街を目指した歩行者優先の街づくり計画がみられる。

目黒区は、2002 年 3 月に「目黒区中心市街地活性化基本計画」を策定した。文化的で個性的である自由が丘らしさを継承し、散策や買い物など歩いて楽しめるという特徴を助長するような、ハード、ソフトの両面で人にやさしいまちづくりを行うことを掲げている。

連続立体交差事業とは、鉄道を連続的に高架化または地下化することにより、道路と鉄道の連続立体交差化を図り、その区間にある複数の路切を撤去する事業である。また、都市交通の円滑化や線路で分断された市街地の一体化などを図り、都市活動の活性化を促す。さらに、周辺地区で実施される土地区画整理事業等の面整備事業の一時的な施設により、市街地の再生・活性化及び快適で魅力的なまちづくりを推進することができる。連続立体交差事業は都市部を中心に全国 62 箇所で実施されており、そのうち 36 箇所が三大都市圏で行われている。

「目黒区中心市街地活性化基本計画」においても東横線・大井町線の立体化は重点プロジェクトの一つに掲げられている。区では、東横線・大井町線の鉄道立体化をし(図2)、自由が丘駅周辺地区及び沿線地区における土地の有効利用、公共空間の創出、鉄道による地域空間の解凍、商業及び防災拠点の機能拡充等によって数々新たな取り組みを実現に取り組んでいる。現在は周辺環境の調査を行う他、まちづくりに関する意見を市民に広く求めている(表1)。2030 年を目処に、行政、事業者、TMO³⁾が連携して、駅の建替えや都市計画道路である補助 127 号線の整備と併せ、駅前広場等の歩行者空間の整備を行う予定である。

若年層の活動の起点の可能性

年	出来事
1927	自由が丘駅開業
1929	文芸人らが多く暮らす「自由が丘文化村」と呼ばれる
1934	九品仏川緑道の整備
1936	マツリノエビル(現・マツリノエビル)開業
1938	サンポート・プレイス開業
1939	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1940	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1941	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1942	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1943	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1944	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1945	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1946	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1947	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1948	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1949	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1950	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1951	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1952	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1953	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1954	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1955	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1956	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1957	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1958	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1959	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1960	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1961	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1962	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1963	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1964	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1965	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1966	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1967	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1968	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1969	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1970	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1971	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1972	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1973	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1974	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1975	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1976	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1977	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1978	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1979	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1980	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1981	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1982	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1983	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1984	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1985	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1986	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1987	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1988	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1989	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1990	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1991	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1992	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1993	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1994	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1995	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1996	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1997	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1998	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
1999	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2000	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2001	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2002	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2003	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2004	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2005	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2006	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2007	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2008	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2009	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2010	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2011	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2012	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2013	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2014	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2015	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画
2016	自由が丘駅西口、駅南に建設地区計画



自由が丘地区は若年層が減少し高齢化がすすんでいる。周辺には複数の大学や高校が存在し、都市再生推進法人のジェイ・スピリットや自由が丘商店街振興組合と連携してまちおこしを行っている大学もみられることから、自由が丘地区は若年層が活動を行う起点になりうる可能性をもち、活動の場を設けることで、街を活性化できると思われる(表4)。具体的には、子連れ世帯や学生の活動を支援する保育園やサテライトキャンパスなどの教育施設が考えられる。

防災拠点の不足



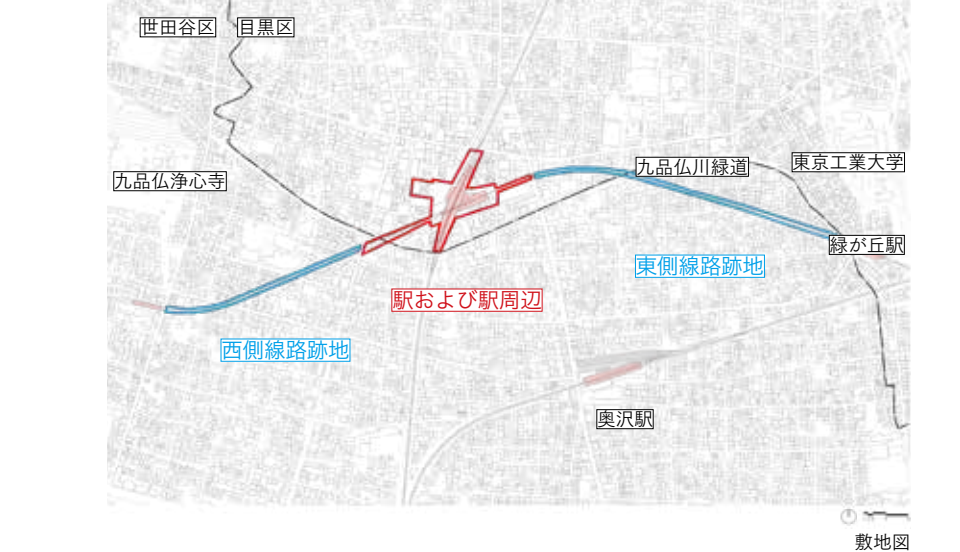
自由が丘駅周辺には大きな公園がなく、防災拠点の不足が問題となっている。そのため、災害時において駅構内に鉄道利用者が滞留することなどを踏まえ、十分な避難場所や備蓄倉庫、発電設備を複合することで、防災拠点としても機能すると思われる。

回遊動線の構築



図4 自由が丘地区に生み出される鎖状の回遊動線

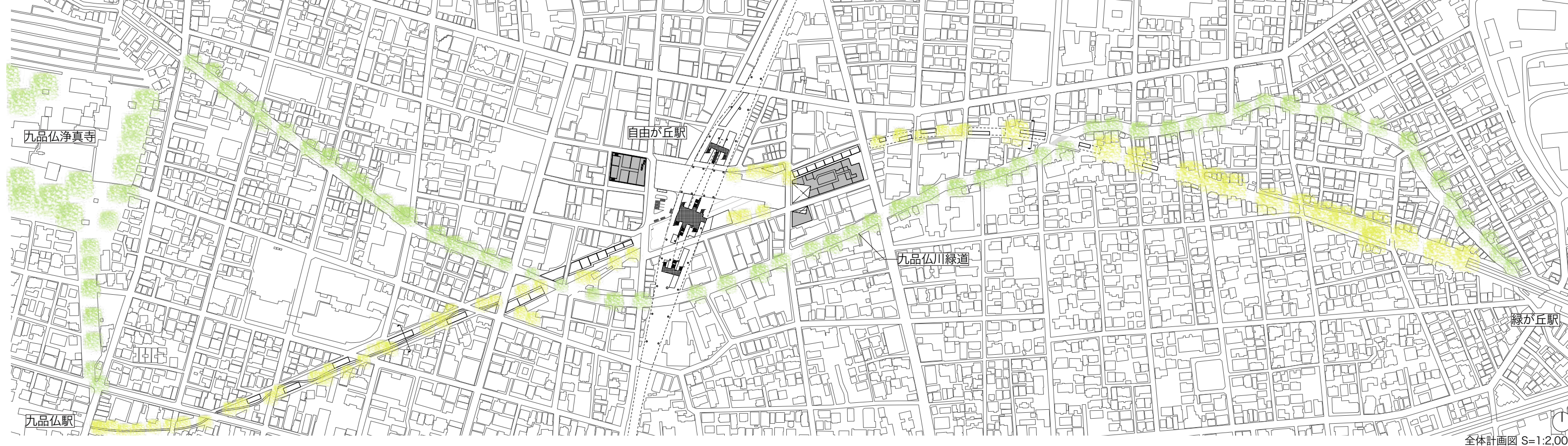
対象敷地



大井町線線路跡地は、良好な歩行者空間となっている九品仏川緑道と二度交差している。線路跡地を教育施設を組み込んだ遊歩道とすることで、東工大・大岡山キャンパスから九品仏浄真寺までをつなぎ、九品仏川緑道と併せて、鎖状の回遊動線をつくりだすことで、周辺を活性化させる(図4)。

対象敷地を自由が丘駅および駅周辺、線路跡地は九品仏川駅側を西側線路跡地、緑が丘駅側を東側線路跡地と分別する。場所によってそれぞれ異なる特徴をもっている。この敷地は目黒区と世田谷区をまたぎ、九品仏緑道と二度交差する場所となっている。

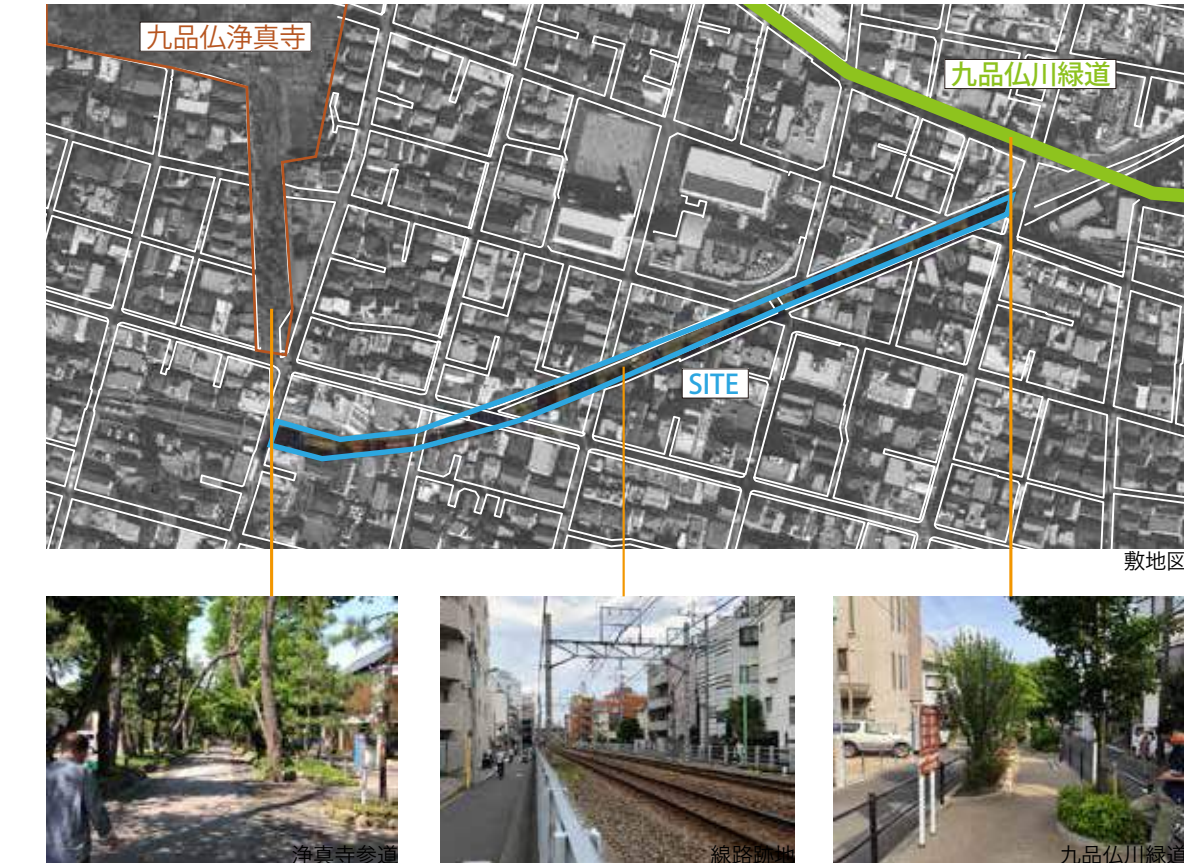
全体計画



全体計画図 S=1:2,000

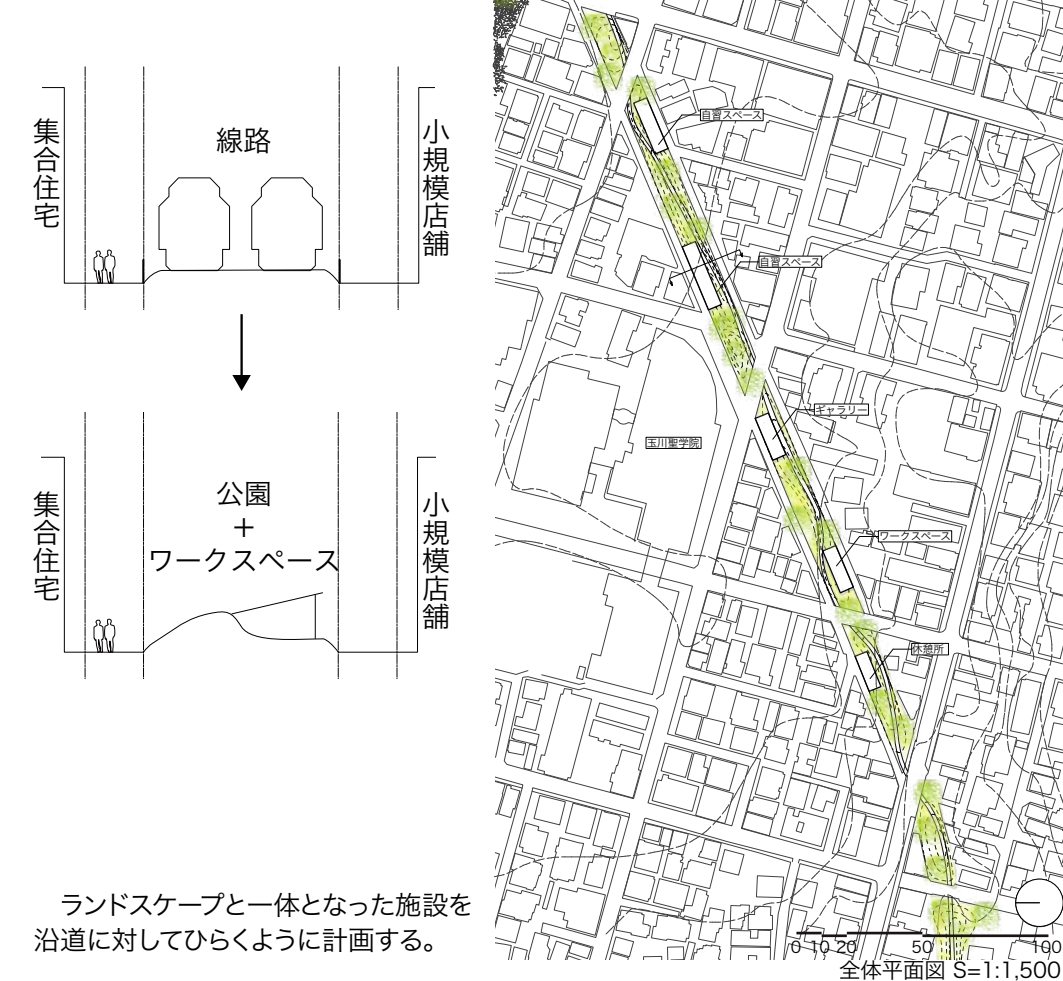
西側線路跡地

敷地概要

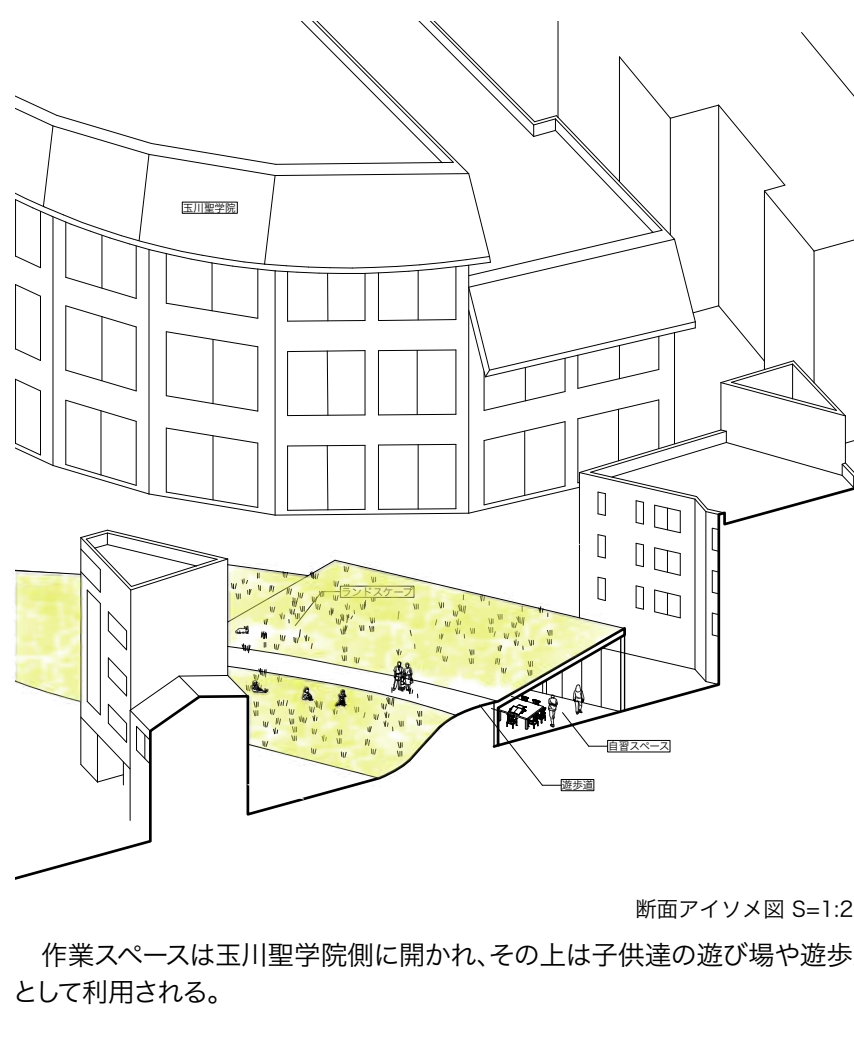


九品仏駅である西側線路跡地は、学校、集合住宅や小規模店舗が混在し、多くの人が行き交う。駅側から徐々に住宅街に移り変わっている。また沿道があり、線路跡地にむけて建物の入口が設けられている。九品仏浄真寺の参道と九品仏緑道と接している。

ダイアグラム



ランドスケープと一体となった施設を沿道に対してひろく計画する。



断面アイソメ図 S=1:200

作業スペースは玉川聖学院側に開かれ、その上は子供達の遊び場や遊歩道として利用される。

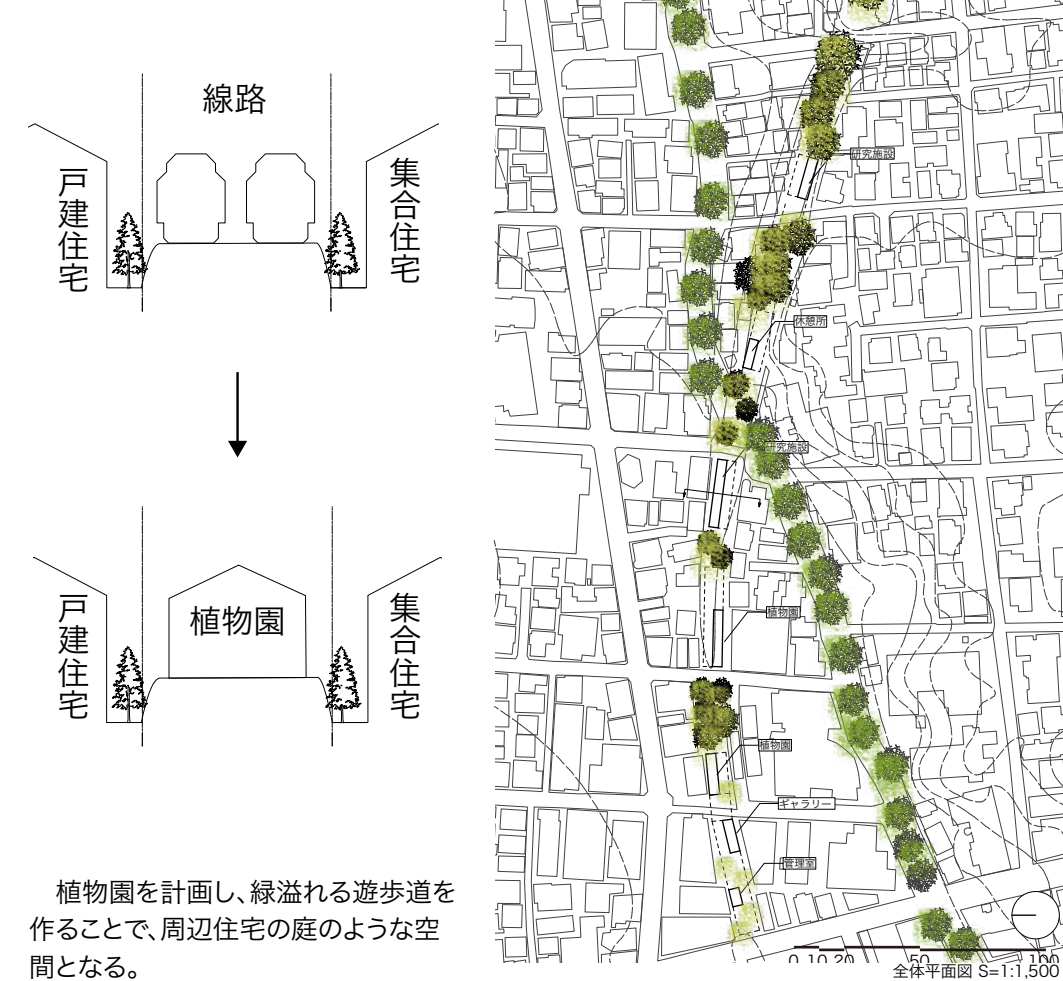
東側線路跡地

敷地概要



緑が丘駅側である東側線路跡地は、戸建住宅や集合住宅が混在するが、線路との間に高低差があり沿道もない。線路跡地に向けては植栽などが設けられており、九品仏川緑道と二度交差している。

ダイアグラム



植物園を計画し、緑道に接する遊歩道を沿道とすることで、周辺住宅の庭のような空間となる。



断面アイソメ図 S=1:200

遊歩道の中に研究施設や展示スペースが点在し、「自由が丘森林化計画」の活動を表出させる。

